



**経験・知識を生かして 仕事に、もう「工夫」を**

朝の9時を過ぎた頃だったろうか。大きなトラックが同センター事務所のある『豊中市役所別館』に横付けした。後部のリヤドアが開き、現れたのは山積みされた紙面の束、『oh-まちかね』最新号だ。「配送」担当の会員を中心に荷下ろしが始まった。

一束100部包装の束をプラットフォームから一つひとつ台車へと移す。すっかり重くなった台車を押し、配送車へ運ぶと、またすぐに残りの束を取りにトラックへ。この作業を何回も繰り返し、「配布(ポスト投函)」担当の会員の自宅へと届けられていく。

「この仕事、もの凄いいんどいですが、でも僕、しんどい仕事が好きでね。その方が体力がつく。そう話す右田信文さんは、6月から「配送」に従事している。配送先の経路や注意事項などの細かな情報を、自らパソコンを使って表にまとめ、滞りなく配送が完了するよう工夫。配達先の条件は様々で、何十束もの紙面を運ぶには困難な、エレベーターの無いマンションもある。そこで、大工だった経験を生かして背負子を作った。効率良く「配布」担当の会員のもとへ紙面を届けられるのだそうだ。「昔の仕事も段取り七分、仕事三分と言われていましたから、段取りを大切に、使命感を持ってやっています」(右田さん)。



品のある濃紺のジャケット姿で「配布」に従事する藤本哲三さんは、小誌の創刊に際しての「配布」の業務依頼が決まった時、同センターの副理事長と就業開拓促進部会の委員を務めていた。民間企業さんからの大きな仕事なので、なんとか成功させたい気持ちがありました」と、「配布」業務への就業を決めた経緯について話してくれた。

「配布」を開始するにあたり、説明会が実施された際、藤本さんは「スムーズに配るためにはどうしたらいいか」と考え、担当するエリア内、全てのマンションの管理人のもとへ挨拶に行くことを考えたという。名刺を持って訪問して回り、ポストへの投函許可を取り付けたそうだ。ポストの状態にも配慮して投函したり、住民に会った際には挨拶をする等、創刊以来続けてくださっている、その丁寧な仕事ぶりには頭が下がる。ただ仕事をこなすのではなく、業務の質を上げる。もう「工夫」。長年培った経験や知識を持つシルバー世代ならではの技と感性である。だからこそ、小誌も毎月安心して業務をお願いできるのだ。



**取材協力**

公益社団法人  
豊中市シルバー人材センター  
〒560-0022  
豊中市北桜塚 3-1-28  
(豊中市役所別館 2F)  
TEL: 06-6856-1777  
FAX: 06-6856-2859  
http://www.toyonakasj.or.jp/

**趣味、仕事、ボランティア 思い思いの充実した日々を**

現在、会員数は約1750名。豊中市の60歳以上の人口の1.4%にあたる。今日では、定年を延ばす企業も増えたことから、市民の収入状況の変化はもろろんのこと、働き方・働く目的も多様化している。「社会に貢献したい」、「働いていたい」、「仲間を作りたい」、「同好会に入りたい」、「生活費の足しに」、「お小遣い稼ぎに」、「毎日ハリを」……様々な要望に応えるように、同センターには豊富な就業案件だけでなく11の同好会や「女性部会」の講習会もある。今回出会った会員の皆さんは、やりがい、居場所、楽しさ、それぞれ求めるものを自分のペースで満喫し、充実した日々を送っているように思えるほどに、いきいきしていたから。

